

九十九里郷土研究会 郷土研通信

『会誌伊和志』第3号

創立一〇周年記念誌発行

去る令和二年十二月十九日(土)、九十九里郷土研究会創立一〇周年を記念して本会の会誌『会誌伊和志』第三号が発行されました。部数八〇〇冊、A四版、七十二頁。執筆者数四十八名。内容はI論ずる II学ぶ IIIつれづれの三部構成で出ています。会員他寄稿者の人柄が文章に表れています。原稿募集要項作成、紙面構成、文字の入力等々の編集作業は、創刊号・第二号を手がけてきた元会員の本保弘文先生に全面的に依頼をしました。四月下旬の原稿募集から七月下旬の締め切りまでの間、先生の献身的な編集作業のお蔭で第一回の編集委員会が開催できました。以後、先生は体調不良を顧みず校正作業や中村印刷所との緻密な連絡をされて、予定よりも早く納本がされました。詳細は、先生の「編集後記」に記されています。(齊藤)



『会誌伊和志』第3号

第12号

会長 内山いつ
事務局長 加藤隆雄

事務所
九十九里町
真亀4294
電話76-3226

会員数55名
令和3年2月現在

平成22.4.17創立

お便りから

(敬称略)

東金市 千葉学芸高等学校校長 高橋邦夫
このたびは、会誌「伊和志」第三号を惠贈いただき、感謝申し上げます。
私の祖母は伊能忠敬ゆかりの長倉、平山家の出で、伊藤左千夫ゆかりの西野、川島家とも縁戚となり、九十九里とは少なからぬ縁を感じておりますので、郷土の歴史や風物についての物語を興味深く拝見いたしました。研究会活動が充実されますよう御祈念申し上げます。

匝瑳市内山 椿 和枝
素晴らしい、センスある、また教知溢れる記事を散りばめた第三号会誌の完成、本当におめでとうございます。

八千代市 岩本紀子
硬軟合わせ持った内容で、読む者を楽ませてくれます。どの作品もすばらしいです。

「町誌編集後考」の木島里八氏、「尽力された日々、誠に大したご努力と感銘を受けました。」
「偉大な科学者、伊能忠敬翁を追って」の内山いつ氏、「ご子孫の伊能洋氏もお喜びでしょう。」の伊能陽子さん、安藤由紀子さん、生きていていただき、「伊和志」を手にとってお読みいただき良かったです。

「黒人の兵隊さんが我家に泊まった」小番香子氏、米兵は可愛い、恐ろしいと九十九里基地の進駐軍のことがあり、伊和志に記録が残ることは事実を知ることがあります。足あと、記録、続けて下さい。

この度はコロナ禍の中、立派な九十九里郷土研究会誌「伊和志」第三号ご出版おめでとうございませす。作田光代さんの「九十九里浜の大地曳く祖父

から聞いたこと」を読み、私も生まれた徳島のバッチ網というシラス漁の網元であったのととても感銘を受けました。また中西月華さんの娘、富江さんの思い出を綴った文章「東京散歩」も心に残りました。

愛媛県西条市 月岡邦子
九十九里郷土研究会、会誌すばらしいです。お一人お一人の文章に思いがたくさん込められ、教えられることの多い時間でした。今後の会の発展をお祈りいたします。

埼玉県草加市 石川靖治
会誌「伊和志」第三号を拝読いたしました。豊かな文化と歴史を輩出された郷土を愛する皆さんのバイタリティーに富んだ健筆に感心刺激されています。

中西月華道遙(3) 細井昌文氏と吉葉昌彦先生

齊藤 功

前回(第八号)で紹介した「薬業の友」(第五九六号、昭和十三年七月十五日発行)と参考にした「東京薬科大学九十年」(昭和四十五年発行)は、それぞれ日本医科大学図書館司書の細井昌文氏と同大学付属病院第一外科教室の吉葉昌彦先生から贈られたものと書きました。このお二人に縁が出来たのは、同大学出身の佐久間洋行(号は峻齋)先生のご紹介によります。そもそも筆者が佐久間先生のお供をして日本医科大学へ行きましたのは、蘭学者宇田川興齋を調べたいのと丸山ワクチンで有名な丸山千里先生がいらしたからです。また、後に吉葉昌彦先生が、亡父の入院していた千葉市の泉中央病院に診察にいらつしやることを知ったからです。図書館で目的を果たした後細井昌文氏を紹介されました。



中西月華(左)と親友川崎安孫(原安民)。月華の曾孫塩津武夫氏所蔵。

『十枝雄三と両総用水』読後の記
村松英一

十枝の森について

現在十枝の森の住所地は「十枝の森」として市民の憩いの場になっている。十枝雄三氏にお世話になった人々が寄贈した「帰山荘」が、森の中にあり、「十枝の森を守る会」会員の熱意あるボランティア活動と市教育委員会等によって守られている。市に寄贈された十枝家の屋敷森は、「十枝の森」と名づけられ、春夏秋冬いつ訪れても巨木と花々が暖かく迎えてくれる森となった。所在地は大網白里市北吉田七五八番地。十枝雄三の次女澄子著、日記『落葉の小途』には次のように記されている。

父母長兄を見送り家族を送るつとめは終わりました。が、「先祖四五〇年の思いのこもる屋敷、家族の思いのこもる木々、そして私にとつてもかけがえのない自然の森は、どうしても残したい」と言う思いが強く、屋敷の森を公共へ寄付し「自然を多くの人々の心の安らぎの場にしてほしい」という気持ちは動かしがたいものでした。町に寄付の申し出をしたのですが、木を中心に置く私の気持ちと「こういふ所は要らない、運動場がほしい」という町の意向が噛み合わず、二ヶ月の平行線の末、白紙に戻りました。次に県に話しましたところ、大変乗り気でしたが結局「県で使うのにはせまい」ということで断



十枝の森入口 2021.1.26 撮影

られませんでした。結局、茂原市長尾にある分家の十枝を通じ、茂原市に寄付することになりましたが、その後町長が代わったのを機に、寄付地を大網白里町に戻す動きがあり、本来の場にもどることが出来、安堵と共に心から感謝いたしました。

献身的な政治生活から晩年は「井戸と垣根」(井戸垣議員)しか残らない十枝家は、両総用水通水により、金銭でははかり得ない大きな物を後世に残してくれた感謝に絶えない尊敬すべき

人物である。十二月の郷土研究会の際、内山いつ会長よりお預かりした古山豊先生編著の『孤高の哲人十枝雄三と両総用水』を拝読し、『伊和志』三号に投稿した私の「九十九里平野に於ける治水と両総用水路建設」で知り得ない御尽力下さった方々や、世情の様子がよく解りました。蛇口をひねればいつでも出る水、房総の大地を四季を通じ潤す命の水、また水害を防ぐ排水に貢献された諸氏に感謝する意で、今回投稿させて頂きました。*付記

『孤高の哲人十枝雄三と両総用水』は、大網白里市文化財審議会会長古山豊氏が、長年調査をした両総用水関係等を網羅した「資料集」である。その中の「V碑文に見る土地改良・耕地整理―山武・長生地区を中心に―」は、貴重な資料集となっている。二〇二〇年十一月十六日発行。非売品。なお、古山氏は「十枝の森を守る会」でも活躍中。

寄稿 和藤内が結ぶ二つの故郷
蔡建偉

我が町の獅子連の演目の一つに「和藤内」がある。和藤内とは近松門左衛門の作品「国姓爺合戦」の主人公である。元は人形浄瑠璃の演目で、後に歌舞伎化された。獅子連では主に十代前半の少年が演じる。モデルとなった鄭成功(日本名・福松)は実在の人物である。父は明の鄭芝龍、母は長崎の田川マツ。和藤内の役名は「和(日本)でも藤(唐中国)でも内(ない)」の洒落に由来する。鄭成功の時代の中国は明の末期で、満州人の起



鄭成功石像 蔡建偉 撮影

こした清の脅威に侵された。彼は様々なたくまな運動を台湾に渡り、現在の台南に鄭氏の政権を樹立する。本人は固辞するも、明の亡命政権の隆武帝から皇室の姓「朱」を賜った「国」の姓を賜った方」と言う意味の国姓爺と呼ばれ

る。また、台湾を占拠していたオランダ人を駆逐する。亡命政権の最後の永曆帝は彼を延平郡王に封じた。台湾では今でも彼に対する人々の崇敬は篤い。

二十二年前に私は台南と縁を得て長期の休暇の度に訪れていた。台南には親戚付き合いをして人々が大勢いる。私が訪れると、旧知の台南の人々は「いらつしやい」ではなく「お帰りなさい」と言ってくれる。台南は第二の故郷である。台南は鄭成功の時代に都だった。別名を「府城(首都の意)」とも「台湾の京都」とも言われる古都である。古都に相応しく廟や寺院が多い。街の中心部の開山路という道に台湾(山)を開いたという意味で開山王とも呼ばれる鄭成功を祀った延平郡王祠がある。一六六二年の創建時の名称は開山王廟と言った。入口付近に総重量が二百トン・珍重される白い花崗岩の鄭成功の巨大な像が鎮座し、本殿を囲む回廊には日本式の神輿がある。日本統治時代に開山神社と改名していた頃の神輿である。日本統治時代の物を排斥せず大切に保存してくれている台南の人々の心意気に私は深く感銘を覚えた。

泊まっていた友人宅で、私の故郷の町では特別な祭りの時に鄭成功を主人公にした「和藤内」という演目があることを友人や近所の人々に話した。皆は一緒に驚くと共に、台南と九十九里町が鄭成功と言う人物でつながっていることに不思議な縁を感じ、私に対して益々の親近感が湧いたという。私の故郷の九十九里町と第二の故郷の台南、この二つの故郷が鄭成功(和藤内)によって結ばれていることに私も時空を超えた縁を感じている。

台湾では鄭成功を記念した名称が数多くある。国立大学では旧帝國大學の台灣大學と肩を並べる名門の成功大學が台南市にある。台北市立成功高級中學(高等學校)は生徒が秀才揃いの名門校である。成功路という道は台南だけでなく他の多くの街にある。東部の太平洋沿岸には成功という鎮(町)がある。和藤内こと鄭成功が二つの故郷を結んだ縁を大切に、台南をはじめ親日家の多い台湾の人々の交流を今後も続けていきたい。*作者の原稿を尊重して旧字体はそのままにしました。(齊藤 功)

そして細井氏のお陰で前記の『葉業の友』の複写を手でできました。細井氏の書翰を次にあげます。

啓 珍しき雑誌又御論稿いただきました。一日千駄木へ出掛け、「葉業の友」調べました。仙花紙で酸化して劣化しておりますが当館のみ奇跡的に保存していたのは幸いです。なによりお役に立てたこと嬉しくおもいます。中西月華という人をしらべておられるのです。総の文人の一人ですね。どうか御研究の進展祈りますと共に、医学図書、雑誌ばかりでなく大学図書館所蔵のものなら相互協力の制度がありますので、どうか又おたずねください。天寒 自愛良寛 敬具

(平成五年)二月二日 細井昌文
つづいて筆まめな吉葉昌彦先生のお手紙を紹介いたします。

(平成元年)四月十六日
前略一昨四月十四日泉中央病院で廻診をしてをりましたら工藤さんが大藤敏之先生の別冊・御尊母様からのお電話のメッセージをきちんとお届け頂きました。まづ御尊父様の具合もよろしい由できつと魚類(特にセグロイワシ)が最も適しているんでせう。佐久間先生印のものは小生も大藤先生から直接頂き、末の娘にやりました。

(平成四年七月十八日)
前略 主に先生のご労作になる明治・大正・昭和に亘る東金・九十九里写真集をお送り頂きまして誠に有難く、昨日より夕食後などゆるゆると拝見させて頂いてをります。又、それに添付しての中西忠吉先生にまつわるコピーの数々も断片的ながら解ります。と申しますのは今の小生の住居に到る迄の満六十五年余りは、本郷・駒込・上富土など、わけて佐々木信綱先生のお住居の隣の誠之小学校・旧上富土の近くの(旧カゴ町)都立五中(現小石川高校)を卒業して今日に到ってをります。末筆乍ら一層ご自愛の上、ご研鑽を祈ります。

この親切なお二人のご協力により、中西月華の東京葉業学校での学生生活が分かってきたのです。余談ですが、佐久間先生から伺ったことです。大相撲力士吉葉山の四股名(しこな)は、吉葉先生に由来するそうです。次回には月華の親友、原安民を紹介いたします。

BOSSO海のめぐみ発見隊 千葉のイワシと醤油を学ぼう

小澤 君代



イワシ資料館での説明

令和二年九月十九日(土)海と日本プロジェクト千葉県オリジナルイベント企画「2020、小学校5・6年生二五名参加。八時チバテレ本社受付し団結式を行う。十時地曳き網体験を九十九里浜で行う。十三時九十九里浜ビーチクリーニングを実施。イワシを学ぼう」海の駅九十九里で実施。九十九里郷土研究会副会長齊藤功氏、運営委員内山菊敏氏、小澤君代の三名が出席。イワシ水槽の説明。資料館の順路に従い説明をし、十七時サンライズ九十九里に移動し学習・質問を受ける。

- 1 和歌山県と千葉県には、どのようなつながりがありますか。
 - 2 干鯛を作る時のどんな苦労があったか。
 - 3 「おっ、べし」と呼ばれる人々の役割はどうか。
- 児童の熱心に学習している姿は印象に残りました。明日は銚子で醤油を学ぶとのことでした。

宗吾霊堂について

染谷佳子

ぼたん桜が美しいというので「宗吾霊堂」を訪れた。最近では佐倉と言うと歴史民俗博物館ばかりを訪れており霊堂を訪れるのは本当に久しぶりであった。子供の頃から「佐倉惣五郎の話は良く聞いており、千葉県人であれば、子供の世代くらいまでは誰でも知っていると思う。江戸時代の後期には歌舞伎でも上演的に、空前の人気であったと言われている。宗吾霊堂には義民佐倉惣五郎が祀られている。正しくは、鳴鐘山東勝寺(真言宗)と言いつつ、平安時代に征夷大将軍・坂上田村麻呂が戦死者の供養のため建立したと言われている古刹である。



宗吾霊堂に掛かる扁額 2019.11

公津村の名主であった惣五郎は、佐倉藩の過酷な年貢取り立てに苦しむ農民を救うために、江戸上野の寛永寺に参詣に来た四代將軍家綱に直訴した。その為惣五郎は磔(はりつけ)に。さらに哀れにも四人の子供たちまで打ち首となる。惣五郎の死後、佐倉藩主・堀田正信は狂気の振る舞いをしたため一六六〇年(万治三年)に改易となり領地没収となる。人々はこれを惣五郎の怨霊と信じて疑わなかった。佐倉藩主堀田氏は、正信の弟の方の系統で幕末まで続く。境内に入ると、右手には惣五郎父子の墓があり線香の煙が絶えない。仁王門をくぐるると正面に本堂左手に霊宝館があり本堂裏には記念館があつて、等身大の人の形が惣五郎の生涯を再現している。霊宝館には惣五郎の遺品や古文書等が展示されている。時間があれば惣五郎旧宅まで歩いてみる。口位の所にある。そして忘れてならないのが渡し守の甚兵衛である。甚兵衛渡しは少し離れた印旛沼のほとり、水神の森にあるというが、今回は時間が足りず行けなかった。ぼたんの公園の中に小さな祠があり、甚兵衛堂と書かれてあつたので手を合わせてきた。この甚兵衛は、大雪について妻子に別れを告げようと江戸から戻ってきた惣五郎のために、藩の役人が封印した鎖を錠で切つて舟を出し、自らは印旛沼へ身を投じて命を絶つたのである。千葉県には、安房の万石騒動の三義民の話などもあり、農民のために立ち上がり刃に倒れかけたが、権力の横暴は決して許してはいなかったのだ。惣五郎の直訴から三五〇年近く経った今も、義民惣五郎は私たちの胸に生き続けている。

(参考文献・千葉県の歴史)文章を再録。(平成十年発行)に掲載の

寄稿 片貝での第二の人生

井上隆男

母校鎌倉学園を退職して平成七年四月偶然の御縁で横浜市栄区から九十九里町片貝に転居しました。以来二十六年になります。数え年で妻と共に九十歳(卒寿)です。平成八年二月十一日、伊能忠敬記念公園に忠敬翁の銅像の除幕式があり、その記事を読んだ時から御指導をいただいた川村優先生から依頼されたのが、房総史研究のスタートでした。『房総の郷土史』24号(平成八年三月刊)に「伊能忠敬翁銅像除幕式の記」(写真撮影は妻美知子)を寄稿しました。町囃託の中村さんと海岸の美化活動のボランティアで沼田知事提唱の「さわやかハートちば」で齊藤峻佐町長時代、東金市民会館で表彰されました。また、ちばテレビでボランティア活動が放映されました。町制45周年で川島伸也町長から中央公民館で表彰されました。その間、県政モニター・町政モニターとして二回経験しました。千葉日報の読者のコーナー「ひろば」に九十九里町を中心とした記事を寄稿。篠崎青童さん主宰の俳誌「つくも」に掲載の記事を採録。町民の皆さんとの交流の輪が広がりました。千葉県郷土史研究連絡協議会の会誌「房総の郷土史」に「地方史研究に見る房総史研究」を連載、千葉県下の郷土史研究者・会との交流を深めました。望月定子美術館主催・実行委員東京成徳大学教授鶴巻孝雄先生の指導で中西月華頭彰の企画展を三年計画で実施しました。旧中西邸を管理されている月華の曾孫塩津武夫さん・当時九十九里高校の齊藤功先生は実行委員として積極的に活動されました。私も実行委員の一人として貴重な体験をしました。展示会場の望月定子美術館・講演会場の町商工会議所をはじめ町民の皆さんの温かい後援を得ました。美術館館長夫妻は町の文化施設の中心として多彩な活動をされ高い評価がありました。が、時の流れというか閉館され、残念という他ありません。

明治大学マンドリン倶楽部OB梅沢好一元町会議員、石橋清孝県会議員をはじめ校友によってこれまで休演されていた公演を東金文化会館で再開しました。現在コロナ感染の影響で中止の状態が続いていますが、再建に参加した一人として一日も早く、公演が実現されることを願っています。また、町のいわし博物館協議会の副委員長を勤めました。町の貴重な資料が現在九十九里中学校の教室に保管されていますが、町の宝である文化財を後世に残すためにも、反省をふくめて善処方策を強く訴えます。中西月華翁の業績は、豊かな海浜文化都市を目指す原動力です。九十九里郷土研究会がその中核になることを期待します。私事ですが、現在妻と二人。在宅介護(要介護支援2)の生活で、福祉と私学共済の恩恵を受けています。千葉政経懇話会の月一度の例会(JR千葉駅中央公園三井ランドホテル)に地方史研究協議会の一会員として参加しています。「牛歩堂々」を心がけ、九十九里町での生活を続けます。合掌。



中西月華展講演会にて、後列左端より井上隆男先生、鶴巻孝雄先生、内山いつ会長、右端中西月華の孫中西桃子氏、前列左から月華の孫高橋啓二氏、齊藤功、月華の末女鈴木富江氏、当間君子氏。2009.8.26 内山いつ氏提供写真より (齊藤功)

活動のあしあと 内山いつ 記

- 4月3日新型コロナウイルスの国内感染にともない総会を中止して総会資料を会員に送付。
 - 4月10日『伊和志』第3号の発行計画及び原稿依頼書を会員他に発送。以後、公共施設閉館のため会の活動は中止となる。
 - 7月25日『伊和志』第3号第一回編集委員会、於史想庵。なお、これに先立ち原稿入力、編集は創刊号・第2号を編集された元会員本保弘文先生に全面的に依頼をした。
 - 8月29日『伊和志』第3号第二回編集委員会、於史想庵。
 - 9月19日役員会、於中央公民館。海の駅内いとし資料館にてガイド。内山菊敏・小澤君代・齊藤功の三会員。
 - 10月10日『伊和志』第3号第三回編集委員会、於史想庵。中村印刷会社へ原稿提出。
 - 10月17日第一回例会開催。於中央公民館。
 - 『あい・永遠にあり』を読んで 内山いつ古文書解読のための「手紙講座」その壱 齊藤 功
 - 11月18日編集委員会、於中央公民館。
 - 『伊和志』第3号が八〇〇冊納本される。各方面に配布の準備作業。執筆者48名。74頁。
 - 11月21日第二回例会開催。九十九里町小関地区の妙覚寺を見学。本会会員住職河野時巧師が、案内をされる。見学後河野氏の講演「幕末の学者西山翰海を語る」を聴講。
 - 12月19日第三回例会開催。於中央公民館。「海保漁村と渋沢栄一」 染谷佳子 古文書解読のための「手紙講座」その弐 齊藤 功
 - 令和3年1月14日コロナウイルス感染の拡大により1月、2月の活動を休止と決定。
 - 2月20日「郷土研通信」第十二号発行。
 - 3月20日役員会開催予定ですが、状況によって変更もあります。
- 編集後記
今号は、本保弘文先生や内山菊敏夫人の後を受けて初めて私が編集を担当しました。不慣れなため見苦しき点は、ご容赦をお願い致します。本保先生、内山さんに感謝。(汀魚)